



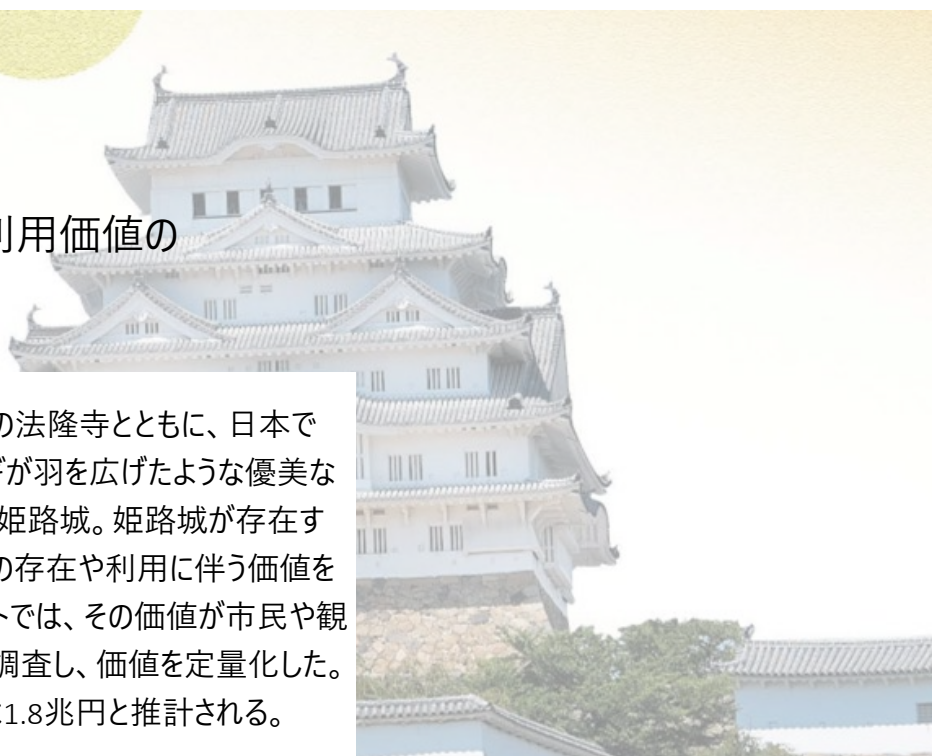
姫路城の社会的価値分析

姫路城の存在価値および利用価値の
可視化に関するレポート

姫路城に関する 社会的価値分析

姫路城の存在価値および利用価値の 可視化に関するレポート

国宝姫路城は平成5年12月、奈良の法隆寺とともに、日本で初の世界文化遺産となった。シラスギが羽を広げたような優美な姿から「白鷺城」の愛称で親しまれる姫路城。姫路城が存在することは、姫路市民や日本国民にその存在や利用に伴う価値をもたらしていると考えられる。本レポートでは、その価値が市民や観光客にどう受け止められているのかを調査し、価値を定量化した。結果として、姫路城の社会的価値は1.8兆円と推計される。



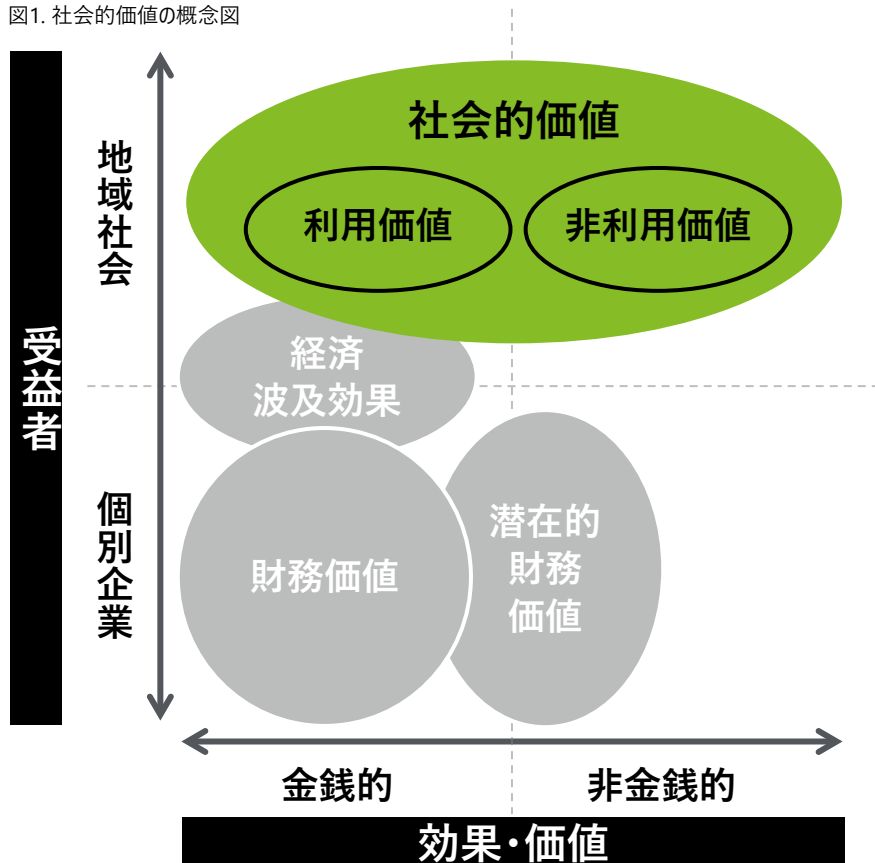
姫路城の存在・利用による社会的価値

姫路城は、多くの観光客が訪れる観光地であり、同時に日本国民や、市民にとって、存在が及ぼす影響も大きいと考えられる。本レポートでは、姫路城の存在や、利用によってもたらされる社会的価値を分析することで、姫路城によってもたらされる価値の定量化を行った。結果として、利用価値と非利用価値を合計して1.8兆円の価値があると推計された。これは、姫路城が残す歴史的な価値が広く認められているほか姫路市民の地域に対する誇りの醸成に寄与していること等が背景と考えられる。

社会的価値

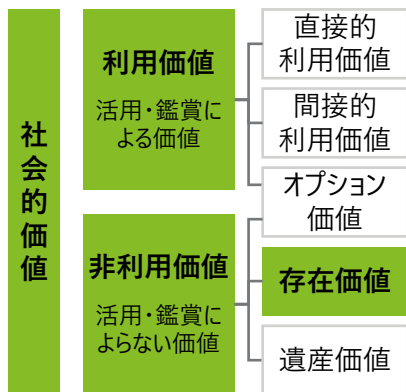
社会的価値とは、対象の存在や、対象を中心とした経済活動を通じて、地域や他産業などのステークホルダーに対してもたらされる公益的価値と定義される。社会的価値はその性質により利用価値・非利用価値に大きく分類することができる（図1参照）。利用価値はその財を直接・間接的に利用することにより得られる価値であり、例えば木材生産や食料生産があげられる。非利用価値は消費的な利用はできないものの、間接的に利用されることで得られる価値であり、レクリエーション利用等が挙げられる。非利用価値に分類される存在価値は、存在するという情報・認識により得られる価値である（図2参照）。例えば対象の存在が地域のシンボルとして住民のアイデンティティを形成している場合、対象が地域に存在価値をもたらしていると考えられるため、存在価値があると定義できる。

図1. 社会的価値の概念図



参考：株式会社日本政策投資銀行「スタジアム・アリーナおよびスポーツチームがもたらす社会的価値の可視化・定量化調査」

図2. 存在価値の位置づけ



本レポートで姫路城の社会的価値を分析するうえでは、存在価値と利用価値を対象とした。

社会的価値の分析方法

社会的価値は目に見えない価値であり、また当該財を取引する市場を持たないケースがあることから、消費者が得ている効用への対価を観測することが難しい場合がある。社会的価値の分析においては、費用便益分析（Cost Benefit Analysis）が最も長い歴史のある分析手法である。費用便益分析には、当該財により影響を受ける消費行動に関する需要曲線を推定して当該財により生じる消費者

余剰の変化分を求める「消費者余剰法」や、当該財の利用者がどれだけの効用を感じているか（支払意志額：Willingness to Pay）をアンケート調査等を用いて分析する「仮想市場評価法」*1（図3参照）等がある。本件において姫路城の社会的価値を分析するうえでは仮想市場評価法を採用した。

姫路城の概要

姫路城とは

姫路城は、兵庫県姫路市にある城であり、国宝である。シラサギが羽を広げたような優美な姿から「白鷺城」の愛称で親しまれている。白漆喰総塗籠造りの鮮やかな白の城壁や5重6階地下1階の大天守と東、西、乾の小天守が渡櫓で連結された連立式天守が特徴である。今、私たちが目にしてる姫路城の大天守は、慶長14年（1609年）に建築されたものであり、400年以上が経過した現在でも、その美しい姿を残している。その美的完成度は、多くの観光客に楽しまれているが、一方で、ニューヨークに自由の女神があるように、姫路城は市民にとっての心の拠り所およびシンボルであり、シビックプライドの象徴となっている。

世界文化遺産への登録

世界文化遺産として登録された背景としては、特に以下の2つの理由がある。

- 1) その美的完成度が我が国の木造建築の最高の

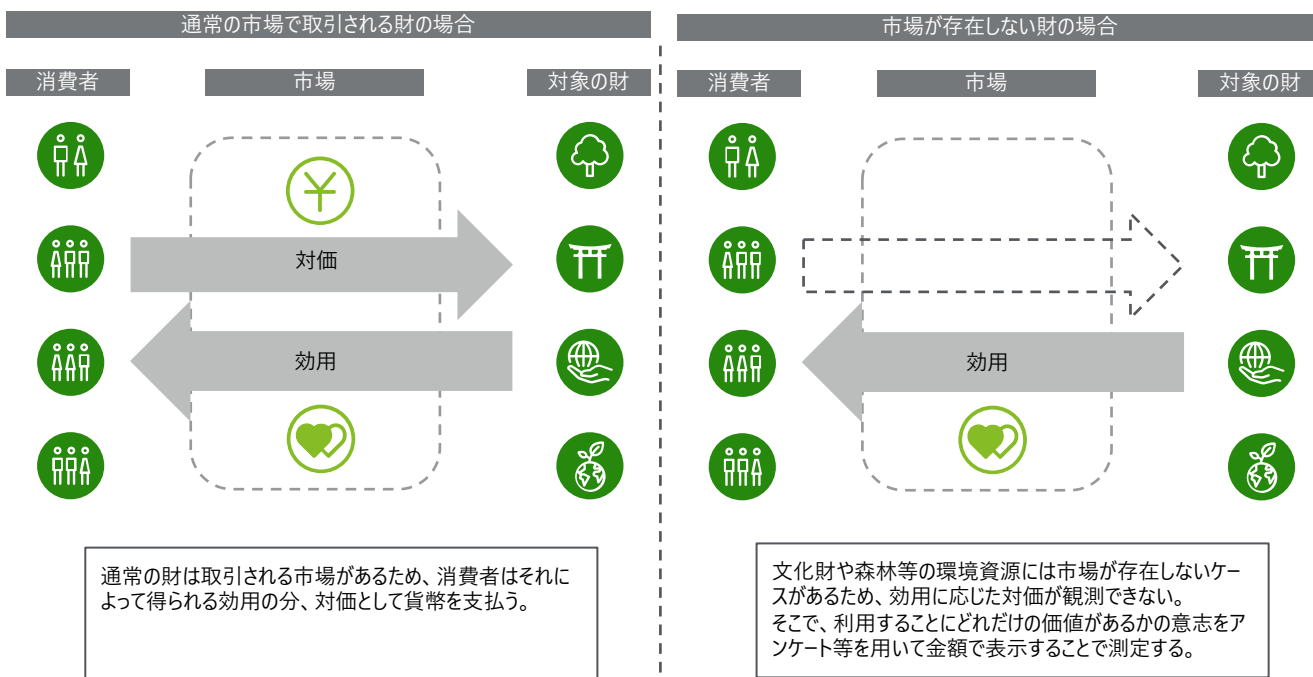
位置にあり、世界的にも他に類のない優れたものであること

- 2) 17世紀初頭の城郭建築の最盛期に、天守群を中心に、櫓、門、土塀等の建造物や石垣、堀などの土木建築物が良好に保存され、防御に工夫した日本独自の城郭の構造を最もよく示した城であること

姫路城が作られた17世紀初頭は、将軍や大名が統治する日本の封建制の時代であり、多くの大名たちによって権力を誇示するために大規模な城郭が築かれた。姫路城は、その中でも現存する最大の城郭建築であり、その壮麗な意匠は、その時代の特質をよく表している。*2 この点で、姫路城の歴史的価値は高く、また建築物としても、大きな価値を持つとされている。

姫路城は、2023年12月に世界遺産登録から30周年を迎えた。姫路市では、先人の残した世界に誇る姫路城の価値を理解し、次世代に守り伝えていくとともに、地域の賑わい創出と活性化を図るために活用を進めている。その一環として、2022年12月から2024年3月まで、世界遺産登録30周年記念事業を展開している。これを通じ、姫路城の本質的な価値を高めながら活用することで、文化振興とともに地域活性化を図っていく方針である。

図3. 社会的価値における支払意志額の推定の概念図



参考：栗山・拓殖・庄子「初心者のための環境評価入門」(1998)

*1 栗山, 拓殖, 庄子., 初心者のための環境評価入門. 勁草書房, 1998

*2 Asia-Pacific Cultural Centre for UNESCO「姫路城 日本の文化遺産」より

分析結果

本件では、姫路市に協力いただき、姫路城の存在価値および利用価値に関するWebアンケートを実施し、2,066名（うち姫路市民118名、日本人訪問経験者780名、日本人訪問未経験者861名、訪日外国人観光客307名*）から回答を得て社会的価値の分析を行った。

姫路城の社会的価値

姫路城は、姫路市住民および観光客から、その美しさと、歴史的価値等の観点で評価されていることが確認できた。上記を踏まえた45年間の社会的価値の合計は、約2兆円となった。

利用価値

訪問者や観光客は、観光施設として姫路城に訪問し、その利用価値を享受している。本分析では姫路城を利用した経験のある市民や観光客に対するアンケート調査を通じて、どの程度の支払意思額を持っているかを分析した。

アンケートにより得られた支払意思額の平均値は表の通り。訪日外国人観光客が最も高く、日本人訪問経験者、姫路市民と続く結果となった。利用価値はそれぞれのセグメントにおいて入場料（1,000円）を上回り、入城による価値が認識されていることが明らかになった。

価値の源泉としては、姫路城の誇る美しい城の外観に加え、歴史的な魅力や、建築としての魅力が考えられる。姫路城についてどのような魅力があると思うか、質問したところ、多くの方が外観に魅力を感じると回答したが、歴史的な魅力がある、と回答した方の支払意思額は相対的に高い傾向にあった。姫路市民の支払意思額は相対的には低いが、非常に身近な文化財であり、常に景観として利用して

いることが背景と考えられる。一方、認識している価値については、姫路市民は「歴史的な魅力がある」「建築としての魅力がある」とする回答が相対的に多く、それらに価値を感じていると見受けられる。

存在価値

姫路城は、その存在自体が地域内住民のアイデンティティ形成に寄与していることに加え、日本人全般

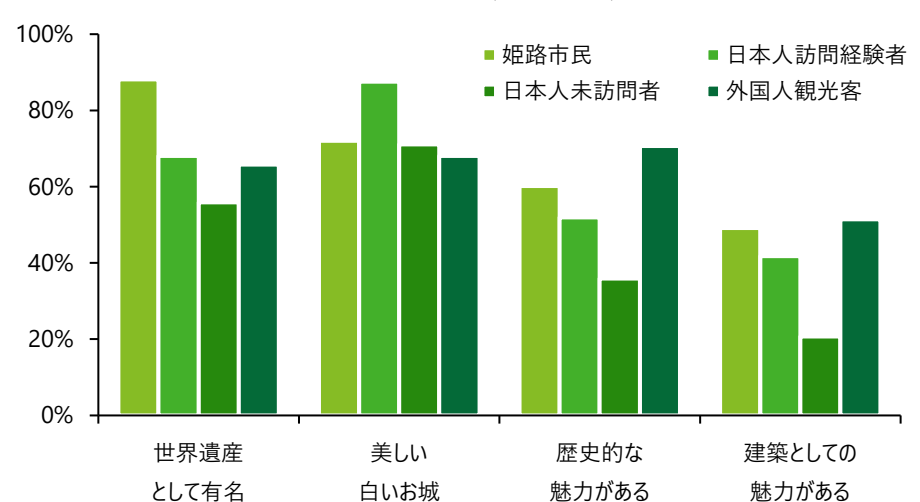
や、観光客にとっても、歴史の保全等に関する価値を提供しているとも考えられる。この価値を分析するため、姫路城を利用したことのない日本人も含めたアンケートを通じ支払意思額を分析した。

アンケート調査の結果、それぞれの支払意思額は、訪日外国人観光客が最も高く、続いて姫路市民、日本人訪問経験者、日本人未訪問者となった。

図4. 社会的価値分析結果

億円	姫路市民	日本人		外国人観光客	合計
		訪問経験者	未訪問者		
利用価値	159	1,253	-	490	1,902
非利用価値（存在価値）	115	4,505	11,796	188	16,603
合計	274	5,758	11,796	678	18,505
（参考）支払意思額					
利用価値	1,479	1,880	NA	2,943	NA
非利用価値（存在価値）	1,070	943	678	1,125	NA

Q. 姫路城に対してどのような印象を持っていますか？（複数回答可）



*本件調査における「外国人観光客」は、中国、韓国、香港、台湾からの訪問者を対象としている

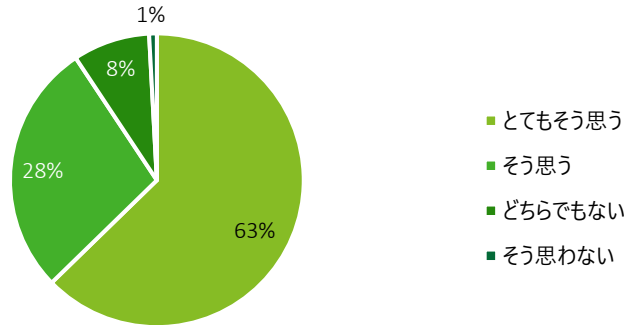
存在価値の源泉の一つは、姫路市民等にとってのアイデンティティ形成である。アンケートにおいて、一番姫路城に当てはまる言葉について質問したところ、「姫路城は姫路市のシンボルである」という回答が圧倒的であり、続いて「日本のシンボルである」という回答となった。特に姫路市民では姫路市のシンボルであるとする回答が他のセグメントよりも多く、姫路市民のアイデンティティ形成に姫路城が寄与していることが分かった。また、日本のシンボルであると回答した日本人の割合は、訪問経験者で34.2%、未訪問者でも16.1%あり多くの人々が日本のシンボルと感じていることが分かった。

一方、訪日外国人観光客については、このようなアイデンティティ形成への寄与はないにもかかわらず、支払意思額が高い結果となった。訪日外国人観光客が「歴史的な価値がある」とする割合が相対的に高かったことを踏まえると、人類にとって貴重な歴史的建造物が保全されていることに対して価値を感じていると考えることができる。

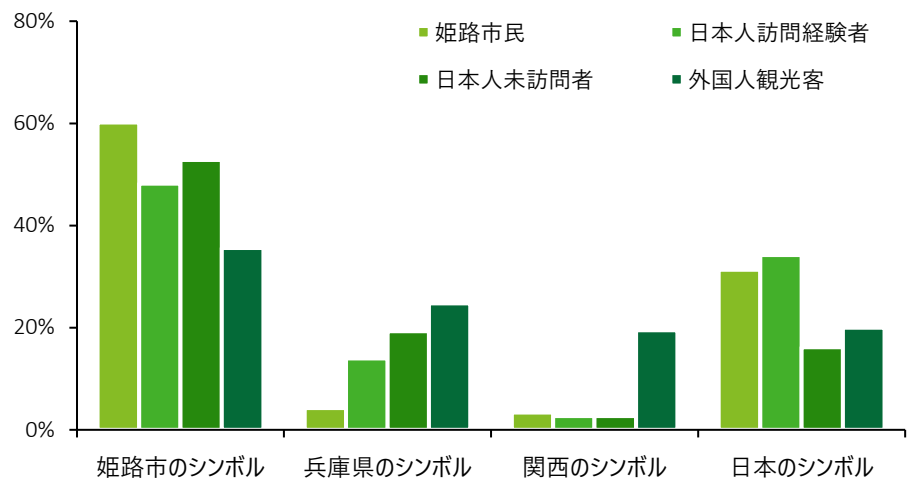


姫路城の印象に関するアンケート結果

Q. 姫路城は全国でも有数の城であり、これを保有することは自治体にとっても大きな価値があると考えられます。あなたは市民として、姫路城の存在は姫路市にとって欠かせない存在であると思いますか？



Q. 以下の言葉のうち、どれが一番姫路城にあてはまると思いますか？



社会的価値分析の実務への展開

経済学的手法を用いて市場で測ることが難しい価値を分析することにより、受益者が対象の財やサービス、あるいは取り組みのどのような要素に価値を感じているのかが可視化される。本件のように文化財の価値評価を行う場合、特に価値が感じられている部分が見えることで、今後この資産を活用して、どのような効果を目指すかを決定するうえで役立てることができる。

また、社会的価値の分析を継続的に実施することで、経年での評価の変化に着目し、政策の実効性を評価することも可能である。本件の場合、支払意思額の高い外国人観光客の誘致に向けた施策や、支払意思額が相対的に高くなる要素である歴史的価値等の認知促進を進めることで、将来的な社会的価値向上が実現すると考えられる。また、相対的に利用価値の支払意思額の低い市民にとって、イベントなどを通じて特別感を演出することで、利用価値を実感いただき、支払意思額を上げてい

くことも考えられる。

そのため、まずは今回の分析結果をもとに活用方法を検討し、数年後の社会的価値の増分がどのくらい達成されたかを観測することで、政策が及ぼす効果の定量的な評価が可能になるだろう。

本件に関する連絡先

合同会社デロイトトーマツでは、経済学的手法を用いた経済的・社会的価値評価や、政策の費用対効果分析等に取り組んでいます。実際の業務依頼だけでなく、取材、寄稿、出版、講演など、ご興味ある場合は、以下コンタクト先までご連絡をお願いします。

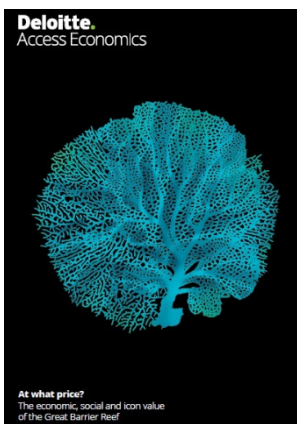


エコノミクスサービス
パートナー/チーフエコノミスト
増島 雄樹

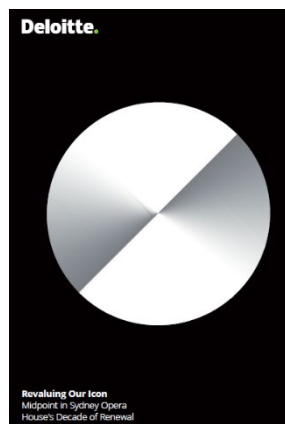
Tel: +81 80 4687 4463
yuki.masujima@tohatsu.co.jp

デロイトの専門性：社会的インパクト分析に関する実績

デロイトでは、世界主要拠点に多数のエコノミストを擁し、公共部門や主要業界の有力企業に対し、先進的な経済学上の知見や手法を活用したサービスを提供しています。ご関心のある方はお声掛けいただけますと幸いです。



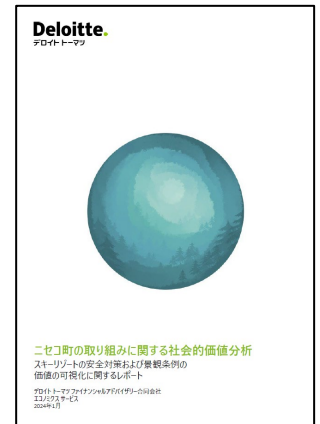
[グレートバリアリーフに関する社会的インパクト分析](#)



[シドニー オペラハウスに関する社会的インパクト分析](#)



小田原城址公園の社会的価値分析



ニセコ町の取り組みに関する社会的価値分析

本レポートは、2024年2月に公表された内容を再掲し、分析内容等はその時点のものとなっています。法人名の変更等に伴う所属先の変更などのみ更新しています。

Deloitte.

デロイトトーマツ

デロイトトーマツグループは、日本におけるデロイト アジア パシフィック リミテッドおよびデロイトネットワークのメンバーである合同会社デロイトトーマツグループならびにそのグループ法人（有限責任監査法人トーマツ、合同会社デロイトトーマツ、デロイトトーマツ税理士法人およびDT弁護士法人を含む）の総称です。デロイトトーマツグループは、日本で最大級のプロフェッショナルグループのひとつであり、各法人がそれぞれの適用法令に従いプロフェッショナルサービスを提供しています。また、国内30都市以上に2万人超の専門家を擁し、多国籍企業や主要な日本企業をクライアントとしています。詳細はデロイトトーマツグループWebサイト、www.deloitte.com/jpをご覧ください。

Deloitte（デロイト）とは、Deloitte Touche Tohmatsu Limited（“Deloitte Global”）、そのグローバルネットワーク組織を構成するメンバーファームおよびそれらの関係法人（総称して“デロイトネットワーク”）のひとつまたは複数を含みます。Deloitte Globalならびに各メンバーファームおよび関係法人はそれぞれ法的に独立した別個の組織体であり、第三者に関して相互に義務を課しまたは拘束させることはありません。Deloitte Globalおよびその各メンバーファームならびに関係法人は、自らの作為および不作為についてのみ責任を負い、互いに他のファームまたは関係法人の作為および不作為について責任を負うものではありません。Deloitte Globalはクライアントへのサービス提供を行いません。詳細はwww.deloitte.com/jp/aboutをご覧ください。デロイト アジア パシフィック リミテッドは保証有限責任会社であり、Deloitte Globalのメンバーファームです。デロイト アジア パシフィック リミテッドのメンバーおよびそれらの関係法人は、それぞれ法的に独立した別個の組織体であり、アジア パシフィックにおける100を超える都市（オークランド、バンコク、北京、バンガロール、ハノイ、香港、ジャカルタ、クアラルンプール、マニラ、メルボルン、ムンバイ、ニューデリー、大阪、ソウル、上海、シンガポール、シドニー、台北、東京を含む）にてサービスを提供しています。

Deloitte（デロイト）は、最先端のプロフェッショナルサービスを、Fortune Global 500®の約9割の企業や多数のプライベート（非公開）企業を含むクライアントに提供しています。デロイトは、資本市場に対する社会的な信頼を高め、クライアントの変革と繁栄を促進することで、計測可能で継続性のある成果をもたらすプロフェッショナルの集団です。デロイトは、創設以来180年の歴史を有し、150を超える国・地域にわたって活動を展開しています。“Making an impact that matters”をバース（存在理由）として標榜するデロイトの約46万人の人材の活動の詳細については、www.deloitte.comをご覧ください。

本資料は皆様への情報提供として一般的な情報を掲載するのみであり、Deloitte Touche Tohmatsu Limited（“Deloitte Global”）、そのグローバルネットワーク組織を構成するメンバーファームおよびそれらの関係法人（総称して“デロイトネットワーク”）が本資料をもって専門的な助言やサービスを提供するものではありません。皆様の財務または事業に影響を与えるような意思決定または行動をされる前に、適切な専門家にご相談ください。本資料における情報の正確性や完全性に関して、いかなる表明、保証または確約（明示・黙示を問いません）をするものではありません。またDeloitte Global、そのメンバーファーム、関係法人、社員・職員または代理人のいずれも、本資料に依拠した人に関して直接または間接に発生したいかなる損失および損害に対しても責任を負いません。Deloitte Globalならびに各メンバーファームおよび関係法人はそれぞれ法的に独立した別個の組織体です。

Member of
Deloitte Touche Tohmatsu Limited

© 2026. For information, contact Deloitte Tohmatsu Group.



IS 669126 / ISO 27001



BCMS 764479 / ISO 22301

IS/BCMSそれぞれの認証範囲はこちらをご覧ください
<https://www.bsigroup.com/clientDirectory>